



秋冬ブロッコリー

やさいの里営農センター
営農指導員 椎名 康隆

農業 テクニカル ダイアリー

Agricultural-work technical diary



秋冬ニンジン

山武経済センター
営農指導員 小関 和彦



圃場が多くみられます。更に加里過剰では、苦土の吸収が阻害され、べと病の発生



施肥

施肥量は、中早生品種・中晩生品種との施肥設計を行います。窒素成分では、中早生では20キロ(うち基肥70%)、中晩生では25キロ(うち基肥50%)となります。



定植

若苗定植を励行し、老化苗の定植は厳禁です。定植の目安は、セル苗128穴で3〜4枚、育苗日数25〜30日、大苗5〜6枚、育苗日数30〜35日となります。



育苗

大苗育苗では、苗床を表③を参考に準備し、高さ1センチ程度の平畝に十分な散水をし、地温を下げてから播種します。発芽適温は25℃で、地温を下げるため黒寒冷紗を一重掛けします。本葉2枚時で寒冷紗一重、本葉3枚で除去します。



品種選定

年内取り、年明け取りで品種の選定を行います。年内取りの代表品種としてサマードーム、おはよう、ファイター等があります。年明け取りの品種として、おはよう、クリア、ウンタードームがあります。ブランドームもありですがアントシアンに注意してください。



肥培管理

生育ステージに合わせた肥培管理が重要となります。①発芽〜本葉3葉期前後の初期生育期



土壌消毒

良品質のニンジンを作る上では完熟堆肥や緑肥の施用が必要となります。反面、コガネムシ類の幼虫やネキリムシの発生が増える傾向にあるので、フォース粒剤(10坪当たり4〜12キロ)やDC油剤(10坪当たり20リットル)等で防除してください。



圃場準備

JA山武郡市では、秋冬ニンジンのちばエゴ栽培を奨励しています。現在、作付面積の約3分の2がちばエゴ栽培として出荷されています。ちばエゴ栽培は、①土づくりとして完熟堆肥または緑肥を施用する、②化学肥料由来の窒素量を成分で10坪当たり7.5キロ以下とする、③化学農薬の総使用回数を8成分使用回数以下(使用成分×回数)とする、の3つを満たすことで認証を受けることができます。



作型と品種

品種選定は、品種特性や収穫時期を考慮して行ってください。作型別では、表①を参考にしてください。



土寄せ

本葉5葉期前後の土寄せは、茎葉と根部の境界部分を保護することによりエゴボ(写真①)の発生を予防します。また、年明け収穫を行う場合は凍障害を防ぐため、12月上旬までに土寄せを行います。

表③ 苗床1a当たりの施肥量

肥料名	施肥量
完熟たい肥	200kg
セルカ	10kg
苦土重焼燐	5kg
さんぶジシアン有機特806	5〜10kg



写真③ ホウ素欠乏症状



写真④ コナガ幼虫



写真⑤ ハスモンヨトウ幼虫



写真② べと病による内部褐色

主な生理障害

花蕾内部に空洞が発生する症状です。気温が高い、追肥等の多施用による窒素過剰が主な要因とされています。



病害虫対策

「べと病」は、胞子による空気感染にて発症します。気温10〜16℃(夜温8〜16℃で多発)で、葉・若い茎・花蕾に発生し、排水性の悪い圃場や窒素過多の圃場では「軟腐病」の発生を助長しますので肥培管理に注意してください。



土寄せ

近年、8月下旬〜9月にかけて台風の影響や降雨が多く、黒葉枯病の発生要因となっています。圃場の排水対策も必要ですが、表②を参考に、適宜防除に努めてください。



病害虫防除

花蕾茎部にかさぶた状の斑点が形成される症状です。排水性の悪い圃場(土壌水分過多)による根の生育障害が要因とされています。

表① 秋冬ニンジン 部会指定品種一覧表

主な品種	播種時期	収穫適期	品種特性および栽培上の注意点
愛紅	7/25〜8/5	11月上旬〜12月下旬	極早生品種。遅播きでも年内出荷できる。黒葉枯病に弱いので、茎葉防除に重点をおく。
ベーター441	8/1〜8/10	12月上旬〜3月上旬	生育初期(発芽〜本葉初期)は、適正な水分を確保する。年明け出荷については、年内に十分な土寄せを行う。
彩紅5寸	8/1〜8/10	12月上旬〜3月上旬	甘皮がはがれにくく、洗浄時間が長くなる。頭部が出やすいので、土寄せは十分に行う(凍障害を防ぐ)。
らいむ5寸	8/5〜8/10	12月上旬〜3月下旬	初期生育が劣ると、なで肩になりやすいので基肥中心の施肥設計を行う。
れいめい	8/1〜8/10	12月上旬〜1月下旬	葉は強く立性で、黒葉枯病に強い。土寄せは行う(吸い込みは、並)。

表② ニンジン病害虫防除例

対象病害虫	使用時期	使用農薬	倍率	使用時期	使用回数
黒葉枯病	9月中・下旬	ポリオキシシンAL水和剤	500倍	収穫7日前まで	5回以内
黒葉枯病	10月上旬	カスミンボルドー	1000倍	収穫14日前まで	2回以内
マメハモグリバエ		アフアム乳剤	2000倍	収穫前日まで	3回以内
黒葉枯病	10月中旬	ストロビーフロアブル	2000〜3000倍	収穫7日前まで	3回以内

※降雨が多い場合、防除を増やしてください。



写真① エゴボ

4月の分析経過について

合計2点	
残留農薬分析点数	多成分一斉分析
	春ブロッコリー1点
	ミツバ1点

※残留農薬分析において、基準値を上回る成分は検出されませんでした。

土壌診断点数 合計46点

表④ ブロッコリーのべと病に登録のある殺菌剤

農薬名	使用時期	希釈倍数	本剤の使用回数
ランマンフロアブル	収穫3日前まで	2000倍	3回以内
レーバフロアブル	収穫7日前まで	2000倍	2回以内
ダコニール1000	出蕾前。ただし、収穫21日前まで	1000倍	2回以内

表⑤ ブロッコリーに登録のある主な殺虫剤

対象害虫	農薬名	使用時期	希釈倍数	本剤の使用回数
ヨトウムシ	フェニックス顆粒水和剤	収穫前日まで	2000〜4000倍	2回以内
ハスモンヨトウ、アオムシ	プレバソフロアブル	収穫前日まで	2000倍	3回以内

※上記の農薬は、散布での使用方法です。